



いずみ 泉 議員
ゆみ 愉美 議員

シミとシワは増える一方
なのに貯金は減る一方

問 パートナーシップ制度導入の考えは

町長 他自治体の動向を注視し検討する

LGBTの相談窓口

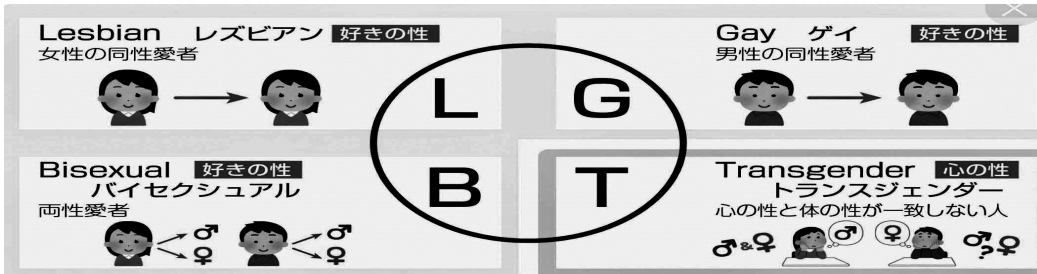
問日本のLGBT該当者は8・9%ほど。本人だけでなく、家族や友人も悩んでいるが、これまでに町への相談はあるか。

答相談実績はないが、こころの健康相談や思春期相談などの機会に相談できる窓口として周知していききたい。

町民の理解促進

問当事者は日常的に差別や偏見に直面している。

互いに認め合える町になるよう風土づくりに力を注ぐべきと思うが、理解促進に向けた取り



さまざまな性を認め合える社会へ

組みは。答町民、企業などに対しての普及啓発に努めていく。

学校での相談体制と配慮は

問LGBTは思春期に自分で気づくことが多い。

秘めている場合が多いが、相談があったらどのように対応するか。

答これまでに相談は寄せられていないが、一人一人の状況に応じて、プライバシーに配慮しながら学校全体で組織的に支援することになる。

問学校では男女で分けられている部分が多くあるが、トイレや制服、健康診断などの際に配慮していることはあるか。

答誰でも使用できる多目的トイレは全ての学校には整備されていない。

制服は今年4月から男子・女子の区別を撤廃し、どちらの制服でも着用できることとなった。

健康診断や更衣室は、要望があれば保健室や多目的トイレを利用できるようにしたい。

パートナーシップ制度の導入

問パートナーとして認められることは、当事者にとって生きる希望となる。

全国的にも急速に広がっている制度導入であるが、本町の考えは。答多様性を認め合い、人権が尊重される社会の実現に向けて、国や他自治体の動向も注視しながら検討していく。

一〇Xモ

パートナーシップ制度とは

同性の結婚が認められていない日本で、自治体が独自の証明書を発行することにより、同性カップルをパートナーとして公的に認める制度。



泉議員の一般質問を視聴できます